

# あんぜん便り

〈発行所〉公益社団法人 郡山市シルバー人材センター  
安全・適正就業委員会

第32号

平成29年4月1日発行

## 事故・災害を なくすために！

軽微な事故一件発生するまでにヒヤリ、ハット件数は300件(ハインリッヒの法則)が発生している。

事故・災害に遭わないためには「事故に至る一歩手前の状況」を重視するのが大いに役立つと認識して下さい。そのための体験事例で頻度の高いものは次の通りです。

- ① 「大丈夫だと思った」・・・作業の慣れと標準動作の無視(軽視)。
- ② 「油断していた」・・・精神状態の緩み。
- ③ 「気が付かなかった」・・・作業手順の不足。
- ④ 「深く考えなかった」・・・知識・注意力の欠落。

就業する限り事故に繋がる原因は多種に亘って潜在しています。この様な因子を排除するための心構えは「自分自身の常日頃の注意」を肝に銘じ、会員の皆様と共に実効のある安全意識の高揚を図り、ゼロ災害を目指します。

(委員 藍原八郎)

### 賠償事故発生件数

(H28年4月～H29年2月)

13件(就業中12件、途上1件)  
※うち刈払機による事故8件

〔 H27年度1件 (1年間) うち刈払機による事故1件 〕

### 傷害事故発生件数

(H28年4月～H29年2月)

3件(就業中3件、途上0件)  
※うち重篤事故(骨折0件)

〔 H27年度9件 (1年間) うち重篤事故(骨折3件) 〕

### 安全標語

安全は

人にたよるな

まかせるな

見逃すな

ヒヤリで済んだ

あの経験

(福島県シルバー人材センター連合会 全国シルバー人材センター事業協会)

### 事故発生を省みて

本年2月、清掃作業中の女性会員が、リネン機ベルトコンベアに着衣を巻き込まれる事故が発生、幸い大事に至らなかったが、重大事故に繋がりがかねない事例だった。身動きが取れずにいたところ、近くにいた同僚が気付き、すそ部分をハサミで切り助けられたが、大きな精神的ショックを残した。直ぐにかかりつけの整形外科医院で診察と検査を受けたところ、異常所見は無かった。

後日安全委員3名と事務局員が現場検証に立ち会い、工場長から当時の事故状況の説明を受けた。就業先代表からは「仕事の慣れがなかったか、今回の事故は想定外の事、基本動作を見直し、再発防止策を講じたい。」との真摯な対応が示された。

当委員から「安全就業第一」を要請し、作業所内の安全対策(ベルトカバー取付)、健康管理、事故未然防止について全員に周知徹底するよう申し入れた。

(安全・適正就業委員会)

# 発注者の方からの声

(敬称略)

日東グラスファイバー工業株式会社  
総務部労務課

係長 薄井 仁弥

当社は富久山町福原にあり、ガラス繊維の製造をしております。

6名のシルバー人材センターの就業者には仕事上、ガラス繊維製造時の熱と埃に負けず、責任感をもって仕事に取り組んで頂いております。

会員の安全対策においては「安全は何よりも優先」をモットーに、機械の清掃時は運転を停止し、二重の安全対策をしています。

時々現場を訪れ、一生懸命仕事に務めている会員の皆さんを激励して下さるようお願いいたします。

米沢電線株式会社

電線事業部郡山営業所総務課

係長 石井 朝昭

日和田町での創業は昭和五十四年。今年で三十八年になります。

当社は電話会社やテレビ機器で使用する電線の製造をしています。

社員は130名で、シルバー人材センターの6名の皆さんにも、電線の皮はぎ他、委託している業務をしっかりとこなして頂き大助かりです。

安全と健康対策はシルバーの皆さんも含め、特に四月と十二月は全社での対策を講じています。



後列左より 栗田さん、寺山さん、松尾さん、伊藤さん  
前列左より 係長 石井様、佐々木さん、三浦さん

「安全就業ハンドブック」を再読し、心得10カ条など確認の上、この手帳はいつも所持して就労するようにしましょう。  
委員会より

# 「高齢化時代」を考える

戦後日本の高度成長期に参画し、「企業戦士」としてその役割を果たした「団塊の世代」も、高齢世代となった今、暫くは高齢層の中核を形成する時代である。

現在、高齢者（65歳以上）人口の比重は約3割、今後少子高齢化社会が進展していくと、30年後には人口一億人に、高齢者はその4割に迫ると推計されている。

高齢化時代の中にあつて、豊かな経験と知識を持つシルバー世代はどう生きるべきか考える。

シルバー人材センター事業の理念は、自主・自立、共働・共助の精神に基づく。全国の会員数は73万人（福島県内1万3千人）、働く意欲と能力をもって就業に励んでいる。国は施策の中で、シルバー人材センターの活用と後押しを明言、その動向が注目される。

高齢社会の到来を見据え、高齢者は「稼ぎ」のための労働から、「貢献する活動」「後進を育てる活動」に意識を移行させ、生きがいの充実を図るべきであると。

健康度や意識は人それぞれ多様

であるが、時代の変化に対応して社会との関わりを維持することが大切であろうと考える。

当センターの会員概況は別表のとおりであり、平均年齢は70歳。65歳～69歳の団塊世代層が41%、70～74歳台が29%と高く、全体の7割を占める現況にある。

統計調査によると、60歳以上の無職世帯の可処分所得は平均年額一七八万円、生活費は二四八万円で、年間七〇万円余り足りない現実にあるようだ。

当会員の入会動機を見ると、社会参加、経済的理由、健康維持の順にあるも、「年金+α・生活感向上」の就業志向が見てとれる。

(黒澤 達二)

## ＝当センターの概況＝ (29年2月末)

●会員の平均年齢

男性	女性	全体
70.6歳	69.6歳	70.2歳

●入会動機(順)

- ①社会参加
- ②経済的理由
- ③健康維持

●年齢別構成(人)

年齢区分	男性	女性	合計	割合(%)
60～64	119	122	241	11.0
<b>65～69</b>	<b>507</b>	<b>394</b>	<b>901</b>	<b>41.3</b>
70～74	397	226	623	28.6
75～79	193	120	313	14.4
80～84	63	23	86	3.9
85以上	14	4	18	0.8
合計	1293	889	2182	100.0